

かがやく子ども かがやく学校 かがやく地域

平成23年度 熊本県立天草養護学校

研究発表会

研究テーマ 平成21年度・22年度・23年度

一人一人がかがやくキャリア教育の充実



期日 平成23年12月9日(金)

会場 熊本県立天草養護学校

〒863-0005 熊本県天草市本町新休972

TEL 0969-23-0141 FAX 0969-22-5673

目 次

あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
全体会資料・・・・・・・・・・・・・・	2
研究の取組・・・・・・・・・・・・・・	6
講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26

**「みんなが働ける共生社会の提言
～ 重度知的障害者に導かれた企業経営から～」**

日本理化学工業株式会社 会長 大山泰弘 氏

メモ欄

同封資料について

資料1：全体会資料・研究概要・講演資料（本冊子）

資料2：小学部 公開授業資料

資料3：中学部 公開授業資料

資料4：高等部 公開授業資料

学校要覧

「つどい愛」（教育相談支援室）パンフレット

アンケート

お願い

校内すべて禁煙となっております。ご協力お願いいたします。

昼食は、体育館をご利用ください。

弁当は、体育館入口で引換券とお引き換えいただき、回収場所までお持ちください。

アンケートは、体育館出入口の回収箱にお入れください。

あ い さ つ

熊本県立天草養護学校長

島内 直英

平成23年度熊本県立天草養護学校研究発表会にご案内いたしましたところ、御多用中にもかかわらず、多数御参加をいただきましたことに感謝申し上げます。

本年度は、「一人一人がかがやくキャリア教育の充実」を研究テーマに、3年計画で取り組んできました「キャリア教育」研究の総括の年を迎えました。

1年目は、天草地域で御活躍の皆様方から「特別支援学校で育成してほしいこと」について多くのご意見をいただくシンポジウムを開催しました。2年目は、見えてきた課題をもとに、「キャリア教育」の視点から授業改善を試み、天草地域の経済や雇用についての実態を踏まえながら、地域で暮らすための方策にも取り組みました。ともすればキャリア教育を進路先決定のことと考えがちな教職員の意識改革を促し、小学部・中学部でも勤労観の涵養や自分の卒業してからの姿を思い描きながら「生きる力」を育むことを試みました。本年度は、新たな職員を中心として学校全体で社会見学や現場実習に取り組みました。今までの研究の成果を活用しながら、全職員の足並みをそろえ、「キャリア教育」の視点で継続して児童生徒の育成を図りました。本日の公開授業や中間報告を基に、どうぞ、今後子どもたちの成長と学校の活性化、天草地域での豊かな生き方について見守ってください。

さて、本日は日本理化学工業株式会社会長の大山泰弘氏を迎えての講演会を実施いたします。大山氏は1960年に2名の障がい者を雇用され、現在約7割の社員が障がい者であるという会社経営をされています。その体験から「働く喜びとはなにか」ということを追求されてきました。本校のキャリア教育の総まとめとして、講演をお願いしましたところ「必要とあれば、何処にでも、何人でも話しに行く。」と快諾いただきました。

御来場の皆様の中には、本校の教育活動に御協力をいただいております様々なお立場からも参加していただいております。これは本年度6回目を迎えた『天草地域特別支援教育セミナー』で培われた連携の成果であると思います。本日の公開授業を契機に、さらなる地域連携が図れることを期待しております。本日は、天草地域の企業経営者の方にもお出でいただいております。この講演を機に本校の教育活動の一端を御覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究発表会を開催するにあたり、日頃の御指導・御鞭撻に加え、県教育委員会、天草地域の関係者の皆様方に、御協力・御理解をいただきましたことに御礼申しあげ、あいさつのことばといたします。

そもそも…

今までやってきたこと全てが、キャリア教育じゃないの？

体験的な活動なんて、ずっとやってきているし

今から新しいことをするのは難しいかな…

特別支援教育 × キャリア教育 って…？

特別支援教育で取り上げる意味は？

結果、本校での考え、選択は…

特別支援教育の理念にキャリア教育の理念はすでに包括されている。

キャリア教育の理念に注目することで、特別支援教育をより一層充実させることができる。

注目すべきは

子どもの将来に必要な力を **系統的・組織的**に一貫した指導が重要

子どもと「働くこと」を適切に **関係づける**

「働くこと」とは、人が果たす役割の中で「自分の力を発揮して社会(あるいはそれを構成する個人や集団)に貢献すること」と考えます

キャリア教育に取り組んだ、その他の理由

12年間一貫した指導ができる恵まれた環境

キャリア教育は、重度重複障がいの子ども、軽度の知的障がいの子どもなど、様々な子どもへも対応できる視点

本校の教師一人一人が考えていることを一つの理念でつなげて、同じ方向をむくことで、さらに良い学校に！

研究のキーワード

情熱 (教員の資質向上) Passion

(発達段階に配慮したキャリア教育の充実) 授業 Mission

連携 (支援者間との連携) Collaboration

研究のキーワード > 情熱 Passion

どんな取り組みでも同じですが…

教師の意識改革

学校生活全体が変わる！

教師が変われば、子どもが変わる！

キャリア教育に関する研修 指導実践振り返り研修 など

学校生活全体をキャリアの視点で見直し、教師一人一人が自然にすべてのことをキャリア教育の視点で考えるようになる。

研究授業などで取り上げる授業以外でも、細かいところでキャリア教育の視点で見ようになり、学校生活全体が変わる！

研究のキーワード > 情熱 Passion

設問 小学部から高等部までの一貫したキャリア教育は必要である

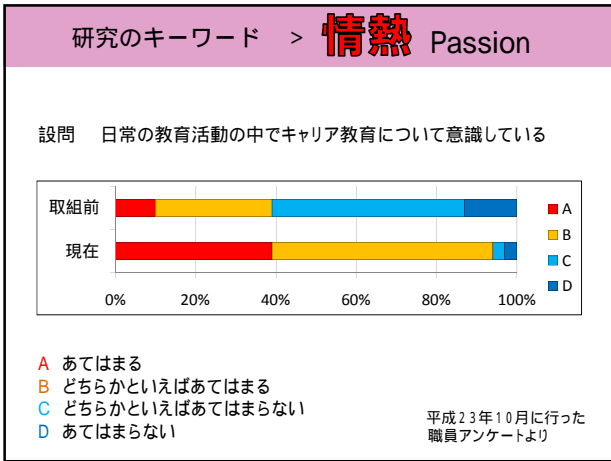
取組前

現在

取組	A (あてはまる)	B (どちらかといえばあてはまる)	C (どちらかといえばあてはまらない)	D (あてはまらない)
取組前	~35%	~45%	~15%	~5%
現在	~85%	~10%	~5%	~0%

A あてはまる
B どちらかといえばあてはまる
C どちらかといえばあてはまらない
D あてはまらない

平成23年10月に行った職員アンケートより



研究のキーワード > **情熱** Passion

この生徒にはこの目標や指導方法でいいのか……
 もっと良い方法はないか……
 自分は経験が浅く、少し不安……
 周りの先生とは話し合うけど、もっと意見を聞きたい、

指導実践振り返り研修

実践（テーマごと）について、全員一枚程度の実践レポート（A4・1枚）を作成
 同じような内容（例：ひらがなの指導等）で縦割りのグループ
 グループ内で一人一人発表し、意見交換
 年に2回「日常生活の指導」「教科別の指導」「天養クリーンタイム」など

こんな意見が
 匿名Aさん：他学部の取組が見えてよかった。
 匿名Bさん：同じ目的の学習でも自分が考え付かないやり方があり、ためになった
 匿名Cさん：生活単元学習など、ほかの授業でもやってみよう

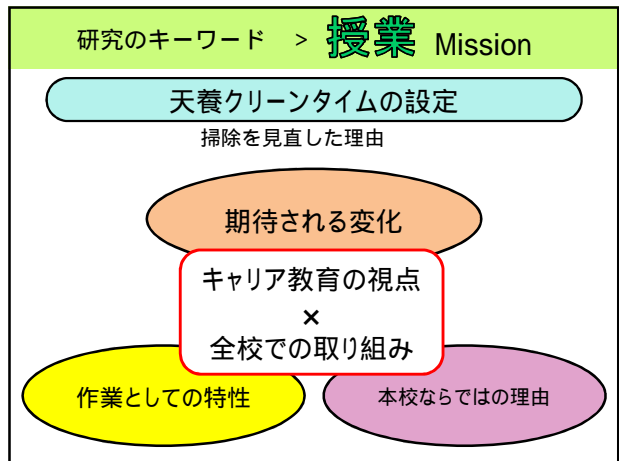
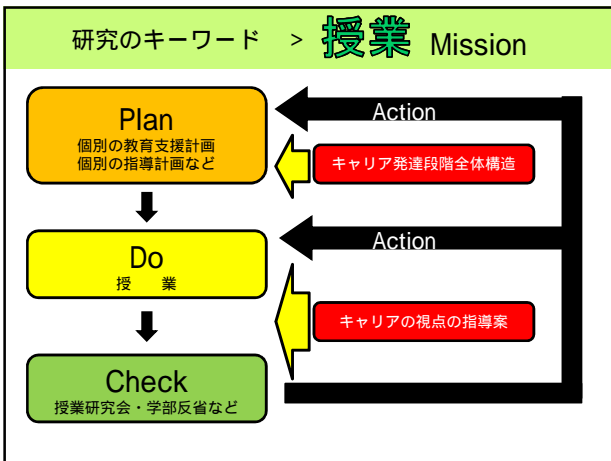
- 研究のキーワード > **情熱** Passion
- まとめ**
- 9割以上の教師が実践の中でキャリア教育を意識して取り組むことができている。
 - 教師一人一人がキャリア教育を意識し、様々な場面での指導・支援が変わってきた。
 - すべての取組の原動力となり、学校全体のボトムアップの要因となっている。
- 今後の課題**
- 今の教師全員の意識を毎年継続させていかなければならない。

研究のキーワード > **授業** Mission

系統的に取り組むために……
キャリア教育全体推進計画・キャリア発達段階全体構造を作成

項目	内容	実施状況
人・物・情報とよりよく関わる力	キャリア教育の推進	推進中
課題解決力	キャリア教育の推進	推進中
学習・目標・共通し・果たす力	キャリア教育の推進	推進中
自己表現力	キャリア教育の推進	推進中
学びの力を広げて進んでいく力	キャリア教育の推進	推進中
キャリア教育推進力	キャリア教育の推進	推進中
目標（意欲）達成や社会生活	キャリア教育の推進	推進中
学習・目標・共通し・果たす力	キャリア教育の推進	推進中
自己表現力	キャリア教育の推進	推進中
学びの力を広げて進んでいく力	キャリア教育の推進	推進中
キャリア教育推進力	キャリア教育の推進	推進中

キャリア発達段階全体構造の一部



研究のキーワード > **授業** Mission

期待される変化

整理整頓
目に見えないところへの心配り

楽しさ以外の充実感・達成感
認められる 必要とされる 働く意欲

決められたことを守る 向上心 気づき
自発性 積極性

研究のキーワード > **授業** Mission

作業としての特性

職場でも生活の場でも関わる

個人で、複数で、活動(団体行動と人間関係)

よけたり、あいさつしたり。周囲に気を配る

大きい動き、細かい動き

結果が分かりやすい活動

研究のキーワード > **授業** Mission

本校ならではの理由

全校で一斉に毎日取り組む

毎日15分(最長12年間)

一人一人の実態に合わせた活動を
設定しやすい

研究のキーワード > **授業** Mission

天養クリーンタイムでの変更点

全校できまりを作る

予鈴、天クリソング

指導、方法、用具の統一

子どもに合わせて場所を設定

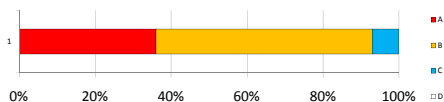
クリーン検定や表彰

交流クリーンタイム

個別の指導計画に項目 每学期評価

研究のキーワード > **授業** Mission

設問 従来通りの掃除に比べて、クリーンタイムでは
子どもに変化があった



- A あてはまる
- B どちらかといえばあてはまる
- C どちらかといえばあてはまらない
- D あてはまらない

平成23年10月に行った
職員アンケートより

研究のキーワード > **授業** Mission

職員アンケートより

一体感

ノルマ 自主的

開始時間を守る 教師の意識改革にも一役

作業学習と同じくらいの気持ち

家庭でも取り組む姿が **集中**

目標設定 ほめる機会が増えた

研究のキーワード > **授業** Mission

まとめ

- ・キャリア発達全体構造などの計画がすべての基盤となり、共通の意識の中で進めることができた。
- ・各学部で「働くこと」を意識した取組が充実し、「働くこと」で卒業後まで1本の道でつなげることができた。
- ・クリンタイムは、「見直すこと」で負担が少なく良い取り組みとなった。

今後の課題

- ・新しい取組には改善の余地がある。さらに子どものニーズに合わせて充実させたい。

研究のキーワード > **連携** Collaboration

アセスメントシートの作成・活用

6領域別に項目を分けて作成

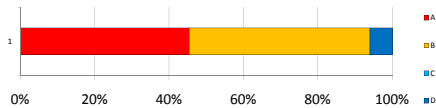
学部が変わっても同じ視点で支援できるように

教師が支援のチェックができるように

本校への入学時の引き継ぎや
産業現場実習、卒業後への移行先など外部との連携でも使用していきたい

研究のキーワード > **連携** Collaboration

設問 アセスメントシートは校内や校外の子どもの引き継ぎ資料、実習先や関係機関との連携資料として有効活用できそうである



- A あてはまる
- B どちらかといえばあてはまる
- C どちらかといえばあてはまらない
- D あてはまらない

平成23年10月に行った職員アンケートより

研究のキーワード > **連携** Collaboration

進路指導の手引の作成・活用

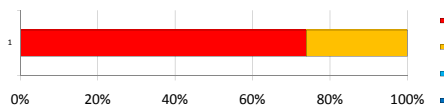
天草地域での卒業後の生活を考えることができるもの

保護者との共通理解

キャリア教育の概要や卒業後の支援体制、進路決定のための資料、天草地域の福祉サービスの解説など

研究のキーワード > **連携** Collaboration

設問 進路指導の手引は卒業後の資料として、有効活用できる



- A あてはまる
- B どちらかといえばあてはまる
- C どちらかといえばあてはまらない
- D あてはまらない

平成23年10月に行った職員アンケートより

研究のキーワード > **連携** Collaboration

まとめ

- ・今後アセスメントシートと個別の教育支援計画の連携を考え、同じ視点で子どもを見る、教師の支援チェックの双方で強化を図りたい。
- ・進路指導の手引は、外部と関わる機会が少ない教師にとっても、理解を深めるための良いツールとなった。定期的な更新が必要。

今後の課題

- ・アセスメントシートのさらなる活用と、改善が必要。

研究の取組

平成21～23年度 研究テーマ

「一人一人がかがやくキャリア教育の充実」

研究の概要

1 テーマの設定について

(1) キャリア教育の必要性

2007年に特殊教育から特別支援教育に変わり、現在で5年目を迎える。そこには「共生社会の実現」という理念とともに、子どもの自立と社会参加へ向けた視点に立つ教育という目的があり、本校でも一人一人の教育的ニーズを把握し、持てる力を高める教育を実施してきた。

近年、若者の働くことへの関心・意欲・態度、対人関係能力、基本的マナーなど職業意識・職業観の未熟さが指摘され、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であるキャリア教育の充実を図ることが課題となっている。また特別支援の分野では、障がいのある人たちが生涯にわたって自立し、社会参加を目指していくことを社会全体で支えていくことの重要性が課題となり、児童生徒の勤労観、職業観を育む教育（キャリア教育）の重要性が特別支援教育でもさらに高まってきた。

本校は以前から重度重複障がいの子どもから軽度の知的障がいの子どもまで様々な障がいのある児童生徒が在籍しているが、近年はさらに障がいの多様化が進んでいる。その一人一人の教育的ニーズに応じて、一貫した支援を行うために「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基盤として、指導・支援を行ってきた。

そこで近年の社会的な背景を受け、児童生徒の将来の自立と社会参加に向けて、これまでの小中高の一貫した教育をさらに充実させるために、学校教育全体の活動を通じてこのキャリア教育を体系的に取り組みたいと考えた。

そして、21年度から3ヵ年計画でキャリア教育の実践研究に取り組み、系統的かつ組織的な一貫した指導・支援を目指し、本校におけるキャリア教育のさらなる推進と、整備を進めることにした。

(2) 特別支援教育でのキャリア教育

社会的自立、職業的自立を目指すという視点においては、今まで本校においても試行錯誤しながら取り組んできたところである。しかし、それを学校全体で系統的・組織的に取り組んできたか、日々の教育活動を「将来を見通した支援」として意識してきたか、またすべての児童生徒を「働ける人」と認識し、明確に「働くこと」を意識した取り組みをしてきたかについて、十分な議論をしていなかったように思う。

小・中・高と一貫した教育ができるという点では特別支援学校は恵まれた環境にあり、さらに卒業後の生活への定着支援も用意されている。そういった環境を最大限に生かすことが必要である。

それぞれの児童生徒に必要な教育内容（将来を見通した）を提供するためには、一貫した教育ができる利点を生かし、系統的・組織的に取り組むための全体計画や、その視点に立った各発達段階

でのねらいや学習内容を明確化する必要がある。

こうして「キャリア教育」を学校全体で取り組むことで、教職員一人一人の意識が変わると共に「働くこと」をテーマに学年・学部間の学習がつながり、学校生活と地域生活、学校生活と職業生活がつながってくるものとする。

ここでいう「働くこと」とは、人が果たす役割の中で「自分の力を発揮して社会（あるいはそれを構成する個人や集団）に貢献すること」と考えます

2 研究のねらい

- ・多種多様な障がいのある児童生徒の卒業後の自立や社会参加を実現するために、教育活動全体を通して、キャリア教育の視点に立った、各学部一貫したより良い指導内容や指導方法、教材・教具の研究開発、教育課程の編成を行う。
- ・職員の意識改革を促し、さらなる学校教育の充実、キャリア教育の推進を図る。

3 研究内容及び方法

研究は分掌部や学部代表からなるキャリア教育推進委員会を組織し、passion（情熱：教員の資質向上）・mission（使命：授業が第一）・collaboration（連携：協力体制の強化）の3部構成で進めていく。

（1）情熱：教員の資質向上（passion）について

キャリア教育の内容や視点、推進の趣旨などについて毎年定期的に研修を行うことで、職員の意識改革と資質向上を図り、ねがいの設定から授業の一つ一つ、指導・支援、教材教具など全体的な改善を図る。

日常生活の指導や教科学習、掃除（天養クリーンタイム）など、普段研究授業で取り上げられにくい授業について、キャリア教育の視点でのレポートとグループ討議で実践を振り返る機会を作り、授業の改善を図る。

（2）授業：教員としての第一の任務、使命（mission）について

キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造を作成し、それを軸に個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。

本校の児童生徒のキャリア発達を促すために必要な能力（関わる力、描く力、求める力、働く力、生活する力、楽しむ力）を設定し、計画や全体構造の枠組みを構成する。

アセスメントシートの作成、活用により、一貫した指導・支援を目指す。

キャリア発達段階全体構造に基づいた、キャリア教育の視点を指導案に盛り込み、PDCA サイクルを通して授業改善を行う。

掃除の時間を見直し、天養クリーンタイムとして、全校で取り組む。

その他、キャリア教育の視点での教育課程の見直しを行う。

（3）連携：協力体制の強化（collaboration）について

進路指導の手引を作成し、支援者全体で天草での卒業後の移行先や暮らしについての知識を

深める。

卒業後の定着支援は、進路指導部・旧担任を中心に計画し、必要に応じて関係機関と連携した支援を行っている。経過を職員研修などで取り上げながら、連携・協力体制の在り方についても共通理解を図っている。

アセスメントシートの活用により学部間の連携及び外部との連携を図る。

4 研究計画

Passion：教員の資質向上	
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造の作成 ・PDCA サイクルでの授業実践
平成二十一年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本校におけるキャリア教育の目標、自立と社会参加に必要な能力の検討 ・全体推進計画の完成 ・自立と社会参加に必要な6領域の能力を中心とした、発達段階別のキャリア発達段階全体構造の完成 ・授業テーマ「なぜ、今、必要か！ ～できないからじゃない、必要だから～」の下、「ねがい」の設定についてキャリア教育の視点での授業研究
平成二十二年度	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造を基にした、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成 ・学習指導案にキャリア教育の視点（6領域の能力）を追加 ・授業テーマ「授業づくり・指導の意図を問う！」
今年度	2年目の取組を改善しながら継続 <ul style="list-style-type: none"> ・授業テーマ「自立をめざそう ～将来を見通したねがいと手だて～」

Mission：教員の第一の使命、授業			
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造の作成 ・PDCA サイクルでの授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・天養クリーンタイムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点での教育課程の見直し
平成二十一年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本校におけるキャリア教育の目標、自立と社会参加に必要な能力の検討 ・全体推進計画の完成 ・自立と社会参加に必要な6領域の能力を中心とした、発達段階別のキャリア発達段階全体構造の完成 ・授業テーマ「なぜ、今、必要か？ ～できないからじゃない、必要だから～」の下、「ねがい」の設定についてキャリア教育の視点での授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・天養クリーンタイムの実施方法について検討 ・実施に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会で全体の教育課程の検討 ・各学部における教育課程の検討

平成二十二年 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造を基にした、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成 ・学習指導案にキャリア教育の視点(6領域の能力)を追加 ・授業テーマ「授業づくり・指導の意図を問う！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月は子どもの実態把握と、掃除場所の選定 ・5月から本格実施 ・MVC (Most Valuable Cleaner) の決定、表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部のステップアップタイム(グループ別の学習)の開始 ・小学部のチャレンジタイム(グループ別の学習)の開始
今年度	<ul style="list-style-type: none"> 2年目の取組を改善しながら継続 ・授業テーマ「自立をめざそう ~ 将来を見通したねがいと手だて~」 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン検定の実施開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部のゴーゴータ イム(グループ別の 学習)の開始

Collaboration : 協力体制の強化		
	・アセスメントシートによる連携	・天草地域の各関係機関についての理解
1年目	・アセスメントシート試作の作成	
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートの作成 ・年度末の校内引き継ぎ資料としてアセスメントシートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間を利用した施設訪問研修 ・進路指導の手引の完成
今年度	・個別の教育支援計画とアセスメントシートの連携について協議開始。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間を利用した施設訪問研修 ・進路指導の手引を保護者へ配布

実践内容について

1 情熱 / 教員の資質向上 (passion) について

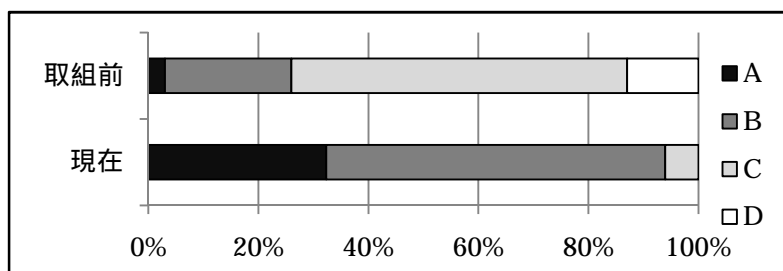
「教師が変われば子どもが変わる」を合言葉にキャリア教育自体の研修や本校のキャリア教育について、キャリアの視点に基づき授業を振り返る研修など、毎年定期的に行ってきた。職員にアンケートを実施した結果、キャリア教育を研究テーマに取り組む前と後では、教師の意識に大きな違いが見られた。

回答は、A: あてはまる、B: どちらかといえばあてはまる、C: どちらかといえばあてはまらない、D: あてはまらない

現在とは2011年10月

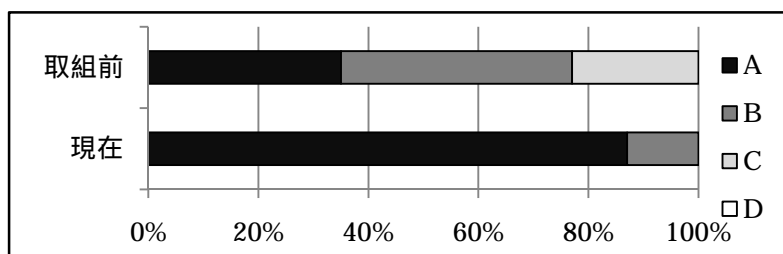
昨年度及び今年度から赴任の本校職員については、赴任した年の4月を取組前とする

設問1 キャリア教育の意味や内容について理解している



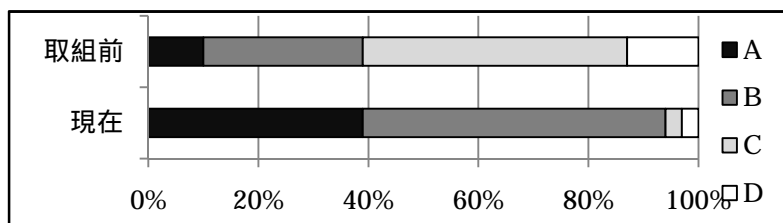
	A	B	C	D
取組前	3	23	61	13
現在	32	61	6	0

設問2 キャリア教育を学校全体で組織的に推進することは重要である



	A	B	C	D
取組前	52	13	61	0
現在	84	16	0	0

設問3 日常の教育活動の中でキャリア教育について意識している



	A	B	C	D
取組前	10	29	48	13
現在	39	55	3	3

上記3つの設問から、職員の意識が大きく変わっていることが分かり、現在では日常的にすべての教育活動で94%の職員がキャリアの視点を意識しながら指導・支援を行い、特定の授業ではなく、学校教育全体で少しずつ改善されるという当初の目標に近づいている。また、本校でキャリア教育に取り組み始めて1年目、2年目、3年目の職員に分けてアンケートを見てみると年数を重ねるごとにAとBの割合が多くなってきていた。

職員の意識が変わることで、日頃の活動が変わってきた例として、調理実習を挙げてみる。取組前はクラス全員で分担してカレーを作るなど、それぞれの役割があり、分担して調理実習を行っていた。現在高等部では「ご飯」「味噌汁」「冷凍食品の解凍の仕方」「自分でできるお弁当づくり」など、将来の生活に必要な力を身につけるための調理実習なども行い、現場実習では生徒が朝から自

分で弁当を作って行く姿も見られている。このように校内の研究授業などでは取り上げられることが少ない授業においても、変化が見られている。

2 授業/教員としての第一の任務、使命 (mission) について

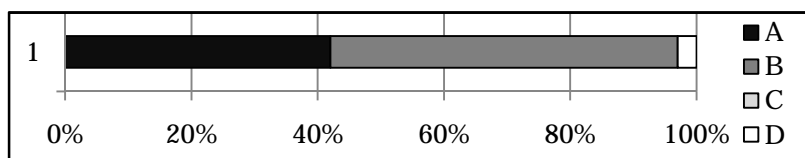
(1) キャリア教育全体推進計画・キャリア発達段階全体構造の作成について (添付資料1・2)

組織的、系統的に小学部から高等部まで一貫したキャリア教育を行うために、「キャリア教育全体推進計画」を作成した。キャリア教育推進委員会で作成し、各学部で検討をおこなった。

さらに具体的にキャリア教育を推進するために、発達段階別のキャリア教育内容の検討をおこなった。その中で児童生徒が将来自立と社会参加を実現するために、学校生活の中で培う必要のある能力を6領域(関わる力、描く力、求める力、働く力、生活する力、楽しむ力)に設定した。設定にあたっては、文部科学省の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」の「報告書」に示されている職業的発達課題の領域・能力を参考に、特別支援教育で身につけてほしい力を加えてとらえ直した。

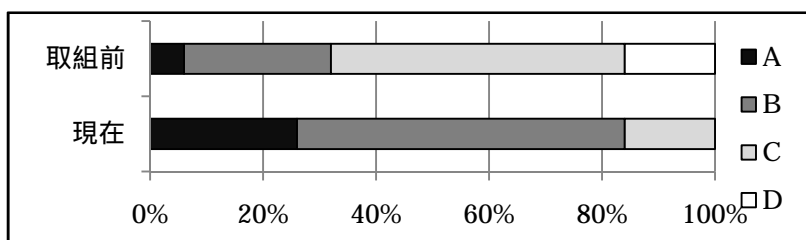
6つの領域の能力が発達段階別にそのつながりが把握できるように、「キャリア発達段階全体構造」を作成した。これは12年間を通したキャリア教育の全体を把握する見取り図とも言うべきものである。これを受けてそれぞれの個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成している。「キャリア発達段階全体構造」の作成にあたっては、岩手県立総合教育センターから公表されている「特別支援学校(知的)キャリア教育推進ガイドブック」を参考とした。

設問4 キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造は、キャリア教育の全体図として参考になった。



	A	B	C	D
1	42	55	0	3

設問5 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成にあたり、キャリア教育の視点を取り入れることができた。



	A	B	C	D
取組前	6	26	52	16
現在	26	58	16	0

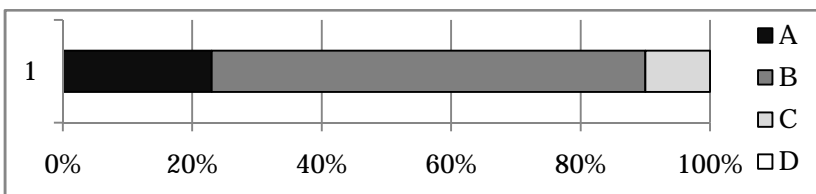
アンケートの結果からは、キャリア教育全体推進計画、キャリア発達段階全体構造を参考にキャリア教育の視点を個別の教育支援計画、個別の指導計画へ反映できていると言える。

(2) 指導実践について

上記の方法で個別の指導計画にキャリア教育の視点を取り入れ、さらにキャリア教育の視点を取り入れた指導案をもとに、PDCA サイクルでの授業改善に取り組んでいる。評価に関してはグループごとの反省、授業研究会、アンケートなどで行い、それを基に改善を行っている。

指導案には本校の6領域の能力のうち、その単元で培うことのできる力を一覧にし、児童生徒一人一人の目標にそれぞれの領域の目標なのかが分かるように表記してある(各学部の指導案参照)。

設問6 指導案の形式にキャリア教育の項目を設けることで、授業を組み立てるときの視点として有効である。



A	B	C	D
23	67	10	0

(3) 各学部の取組

各学部でキャリア教育の視点に基づき、授業改善を行ってきた。授業研究会では主に高等部では作業学習、中学部では進路学習、小学部では生活単元学習について取り上げた。

ア 小学部

小学部では小学部段階を全ての教育活動の基礎作りの時期として捉え、共通理解を図って取り組んできた。本研究の取組において、「キャリア教育」の視点のもと、将来を見据えて、授業を見直す中で、小学部段階で子どもたちにとって必要とされる力を踏まえた授業づくりを、職員間で繰り返し検討し実践してきた。具体的に以下の授業で、子どもたちの様子の変容も見られてきた。

グッデイトタイム(学部全体の朝の集会)

これまでも学部全体の集会として、「サーキット」「朝の会」を実施しており、特に「朝の会」では、一人一役を担って取り組んできたが、研究を進める中で改めて「グッデイトタイム」全体を見直した。活動の流れを「リトミック」「サーキット運動」「朝の会」の3部構成にし、それぞれの活動に『身体を動かすことを楽しむこと』『周囲の動きを見ること』『自分の役割を果たすこと』など、目的を持って取り組むようにした。「リトミック」や「サーキット運動」では、運動面の発達を促していくなかで、「運動が楽しい、チャレンジしたい」という満足感ややる気を育んだり、教師や友だちの動きを模倣して、周囲の人と同じ活動をすることへの意識を持ったり、準備から片付けまで、役割を決めて取り組んだりした。「朝の会」では、これまでと同様に一人一役で会を進行していくようにした。それぞれの活動の中で、周りの動きをよく見て身体を動かす子ども、

鉄棒や跳び箱など新しい動きに積極的にチャレンジする子ども、自分から準備に取り組む子ども、友だちと協力して励まし合いながら取り組む子ども、自分の活動の順番が来るとすすんで前に出て自信満々に発表する子ども等の姿が多く見られるようになった。

生活単元学習（学部全体、グループ別、学級）

生活単元学習は、学校生活の中心となる活動であり、これまでも授業の充実を図ってきた。本研究を通し、キャリア教育の視点にたった授業を見つめ直す中で、グループ別の活動を設定するなど年間計画の検討を行った。今年度より新たに、学部全体の単元の中にもグループ別の活動を取り入れることにした。このことで、単元全体のねがいを達成するために、より一人一人のニーズに応じた活動および支援ができ、一人一人に必要なねがいを明確にして取り組むことができた。学級での単元も、生活年齢に合わせた活動を意識して取り組んだ。4月の学級単元では、学級ごとに花の種を植えたが、低学年では、土に触れたり種をポットに入れたりする活動を、高学年では、土を混ぜる担当、種を植える担当など、役割を分担した活動に取り組んだ。また、学部全体の単元でも、集団だからできる友だち同士のかかわりやみんなで協力する場面を意図的に設定するようにした。

この他、昨年度より毎週1回、一人一人のニーズに応じた活動として、「チャレンジタイム」(グループ別生活単元学習)を実施した。ここでは2グループに分かれ、それぞれねらいを明確にして取り組んでいるが、その中で共通して目指しているものは、『自分でできることがうれしい』『人に認められてうれしい』『人の役に立ってうれしい』ということを感じられる授業である。2つのグループのうち1つのグループでは、自分で考えたり、活動の際に必要な道具や準備するものを考えて話し合ったり、協力して活動に取り組んだりする姿が、もう1つのグループでは、自分がすることに見通しを持って、道具の準備をしたり、自分から次の活動に取り組もうとしたりする姿が見られた。どちらのグループでも活動を通して、経験を積み重ねていくことで、子どもたちの意欲が高まり、積極的に活動に取り組む姿が見られるようになった。

このように年間計画を検討し、それぞれの活動をバランスよく実施していくことで、これらの活動を通して培った子どもたちのよい姿が学校全体の活動に広がるなど、小学部段階で身につけてほしい勤労観の育成につながってきている。

イ 中学部

中学部では勤労観を小学部で培ったあと、作業学習も始まり、「働くこと」を少し具体的に意識し始める時期である。これまで中学部では、生徒のめざす将来の生活からねがいを設定し、学部内で検討を重ね、作業学習では質の高い製品を作り、販売することを通して現在生徒に必要な技術や集中力、自主性、コミュニケーション能力などを身につけるようにしてきた。キャリア教育の研究に取り組み、キャリア教育全体推進計画やキャリア発達段階全体構造という見取り図となるものができてからは、将来必要となるすべての能力に目を向け、生徒一人一人の将来の姿を意識して授業に取り組むことで、よりきめ細やかな支援を考えるようになった。

ゴーゴータイム（生活単元学習）

授業を改善していく中で、生徒のニーズに合わせた授業内容を取り上げようとするとき、学年でグループ分けするよりも、生徒の将来の生活に合わせたグループを作った方がより教育的効果

が高いと考え、「ゴーゴータイム」を設定した。この活動は火曜、水曜の2日間、午後の時間に設定し、2つのそれぞれのグループで将来の生活に必要な力を身につけるための学習を行っている。それぞれのグループの実態に合わせての活動内容を計画し、洗濯、裁縫、調理等に取り組むことで、今までの生活単元学習などでの調理やその他の活動では気づかないような課題が見えてきた。その課題に対して一人一人に合わせて時間をかけて取り組むことで、できることが増えつつある。

進路学習（総合的な学習の時間）

教師が生徒の将来に目を向け、キャリア教育に取り組む中で大きく変わった授業が進路学習である。研究以前は毎年その年度の生徒の状況、実態、経験を考えて単元を設定し、自分の住む地域を知るための地域マップ作りや、職場見学が中心の進路学習であった。しかしそれは断片的なもので系統的・組織的に取り組んできたとは言い難い取り組みであった。

そこで研究後はキャリア発達段階全体構造を基に進路学習を大きく見直した。様々な実態の生徒を小学部から高等部へつなぐために、日常の活動である「掃除」を生かして、校外で清掃活動を行う活動に変わった。この学習では本校のキャリア教育の6領域の能力や勤労観・職業観を一人一人の生徒のニーズに対応できるような取り組みを行うことにした。身近な活動である掃除を通して「働くこと」を意識することで、学校生活から「働くこと」へのつながりを意識でき、周りから感謝され、認められることで働く喜びを得ることができると考えた。

これまでの進路学習では、その時々には指導することで対応しており、教師側の反省に基づく指導が強かった。しかしこの単元では、いつもの活動（掃除）を校外で実践し、社会生活に必要なスキルや掃除の技術などについての反省を報告会という形でを行い、課題がある部分を生徒本人が認識したうえで、校内で課題解決の取り組みを行うことができる。報告会という形をとり、ビデオで実際に自分の姿を客観的に見ることで、教師からのアドバイスを理解しやすくなり、掃除の技術のスキルアップやコミュニケーションの向上意欲や他の掃除に対する意欲の高まりも感じることができるようになった。

こういった具体的に働くことを意識した取組を通して、生徒が普段の生活の中でもあいさつや言葉使いなどを含めた学校生活全般で学習への意欲が高まってきている。

ウ 高等部

高等部では、生徒のほとんどが最後の学校生活として3年間を過ごしている。高等部の生活がより楽しく充実した、思い出に残るものになるように心がけるとともに、3年間かけて学校中心の生活から、地域の社会資源へつながり、それぞれの生徒に合った「働くこと」を中心とした生活が始まることを意識しながら日々取り組んでいる。

キャリア教育の取り組みを始めて3年が経つが、この期間は、今までの高等部の教育内容を全員で見直す好機となった。

以前は授業内容や課題設定に関しての根拠が曖昧な点が見られていたが、取り組みを始めてからは、本校卒業生の様子や天草地域の実情などをふまえ、将来の生活に向けて今必要な教育内容は何かを積極的に意識するようになってきた。つまり、目の前の課題が「できない」から取り組むのではなく、「必要だから」という柱をもとに授業を組み立てるようになった。生徒一人一人のねがいや、それを実現するための手だてが、より具体的で根拠のあるものへとになってき

た。

毎年の高等部職員の入替わりがあるが、学年単位、作業班単位で各生徒の「必要感」について協議する時間を定期的に確保し、実践の足並みをそろえるようにしている。

さらに、高等部は年に2回の現場実習を通じ、学校生活と社会生活の違いを肌で感じる貴重な機会としている。実習先が進路先に直結するという特性を常に意識しながら、日々の教育内容や手だてについて保護者とも連携しながら取り組んでいる。またその手だてが有効であったかどうかを、支援者間で振り返ることも大切にしている。

作業学習

本校高等部での作業学習は、「物を作る（育てる）楽しさや仲間と協力して仕事をする喜びを味わいながら、社会参加・社会自立に向けた積極的な態度や自信を身につけてほしい」とのねがいで、高等部教育課程の中心的な活動として取り組んできた。キャリア教育の取り組みが始まり、作業学習においては以下の二点が変化としてあげられる。

一つめは、「意欲面・態度面の充実」である。卒業後の新しい環境の中で、生徒たちが自分の居場所を見だし、「やりがい」を持って「働き続ける」ためには、生徒たちが、働く一連の活動に対して前向きな考えを持つことが大切であることを常に念頭に置いている。具体的には、自分の活動が周りから感謝される場面、作業の中で大切な役割を担っているという自覚、できるようになってうれしいと思う気持ち等、「人の役に立つ」「人から必要とされる」「人からほめられる」といった、働く喜び・幸せを感じられる場面を授業の中で意識して取り上げるようにしている。このことは、全ての生徒が意欲を持って取り組むための大切なことと捉えている。作業日誌等で自己評価を強化したり、自分の作業中の態度をビデオを使って客観的なフィードバックを行ったりと、支援に新しい工夫をする場面も出てきている。以前から作業学習の中で大切にしている、作業に取り組む際の望ましい姿勢、要求に合う正確な作業、質の高い製品作りと両輪で進めるように今後も取り組んでいきたい。

二つめは、「具体的な目標設定」である。「～を理解する」「時間いっぱい活動する」等、抽象的で曖昧な目標ではなく、具体的な製品の目標個数や誰に何と報告する等を示し、誰もが評価しやすい具体的な行動目標を設定するようにした。そうすることで、他の支援者や家庭との共通理解を図りやすくなり、作業学習で学んだことを学校生活全体や家庭生活において補完、促進するためのつながりをより意識するようになってきた。

ステップアップタイム（総合的な学習の時間）

「ステップアップタイム」とは、昨年より始まった総合的な学習の時間のことで、毎週木曜日、各学年、クラスにおいてグループ別の進路学習を行っている。内容は一人一人の生徒の卒業後の生活を意識したものとなっている。3年間を通じて段階的に学習ができるように、学習内容の一覧表を見ながら、各グループで1年間の計画を立て、個別に対応した職場見学や調べ学習、実習などを行い、個々の課題解決や経験の拡大を狙っている。今までこのような進路学習は各クラスで行ってはいしたが、各学年で内容が重複するなどの、系統性に関する課題が解消された。また実態別にすることで、より焦点を絞った教材選定ができるようになった。

今後は学校と社会の温度差を支援者が的確に把握し、個々の生徒のニーズにあった日々の教育

内容を吟味していくこと、また、本人が現場でやりがいを持って活躍できるための手だてを効果的に移行先へ伝えることが今後の課題である。

天草地域の社会資源には数に限りがあり、各施設ともに定員は満たされつつある状況である。生徒数は増加傾向にあり、今後の進路先を確保するには、一般企業へつながっていく必要がある。そのことも全職員で共通理解しながら、日々の教育活動に取り組んでいきたい。

(4) 天養クリーンタイムについて

キャリア教育を学校全体で推進する上で、今までの「掃除」の時間の改善を行った。掃除を取り上げた理由としては、大きく3つに分けられる。

まず一つ目は「掃除」によって期待される変化についてである。

- ・掃除が身につくと、整理整頓ができるようになり、さらに目に見えないところへの心配りができるようになるのではないかな。
- ・掃除では楽しさ以外の充実感・達成感を得て、さらに人に認められたり、必要とされたりすることで働く意欲へつなげることができるのではないかな。
- ・掃除を通して決められたことをきちんと守るということが身につく、向上心や気づき、自発性や積極性が身につくのではないかな。

理由の二つ目としては、掃除の作業が持っている特性である。

- ・将来、職場でも生活の場でも関わる活動であり、技術が将来に生かしやすい。
- ・個人で活動したり、複数で協力したりする活動である（団体行動と人間関係）。
- ・通行人に注意してよけたり、あいさつをしたりするなど、周囲に気を配る必要がある。
- ・身体的な大まかな動きから、細かい動きまで実態に合わせた活動を準備できる。
- ・「ゴミを拾うとなくなる」など結果がすぐにわかる活動が多く、見通しを持ちやすい。
- ・学校で取り組む上で、コミュニケーションなどの社会的スキルを含めた、勤労観・職業観を実態に応じてバランスよく指導できる。

また、理由の三つ目として、本校ならではの理由がある。

- ・全校で一斉に毎日取り組んでいる活動で毎日15分を行っている
- ・一人一人のニーズに応じた活動が行いやすい などの理由が挙げられる。

以上の理由で「天養クリーンタイム」と名称を変更し、22年度より取り組み始めた。この取り組みは学校全体に大きな意味をもたらした。それは「働く」というキーワードの活動で小中高がつながったということである。引き継ぎや指導の計画上つながることも大事だが、小学部から高等部まで一つの活動で1本芯が通ったということは大きく、またそれがもたらす効果は子どもへの影響だけではなく、全学部を通した取組で職員の意識が同じ方向へ向くことへの大きな力となった。

以前の「掃除」からの変更点は次の通り。

学校全体で統一した指導ができるように、全体で3つの決まりを作り、クリーン集会で確認した。

(時間を守る 隅々まで掃除する 道具を大切に使う)

時間を守るように10分前に予鈴、5分前に「天養クリーンタイムの歌」を流す。

掃除の方法を統一して、指導が毎年変わらないようにする。

(社会法人 全国ビルメンテナンス協会発行の「小学校清掃指導マニュアル」で共通理解)

子どもに合わせて掃除場所を決定する。(毎年各学部の掃除範囲が子どもによって変わる)

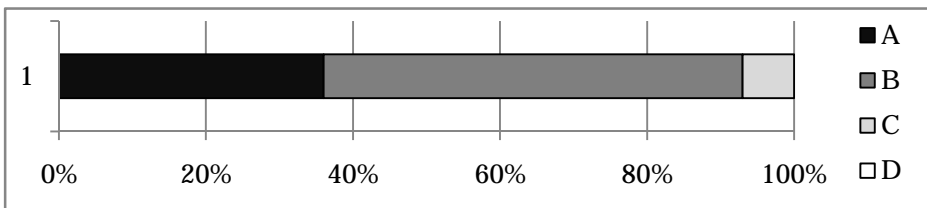
意欲的に活動できるように、クリーン検定やクリーン集会で最優秀洗手賞(MVC)などの表彰を行う。

交流クリーンタイム(他学部の同じ掃除場所の子どもと一定期間交代し、他学部の先生と一緒に掃除をする)を実態に応じて、必要な時に行う。

個別の指導計画に項目を設け、児童生徒一人一人の評価までを毎学期行う。

この中で共通理解していることは、技術の獲得が目的ではなく、あいさつや態度を含めた勤労観を中心に高めていくということである。この取り組みの中でもまず教師の意識が大きく変わり、それに伴って子どもの様子も目に見えて変わった。

設問7 従来通りの掃除に比べて、クリーンタイムでは子どもに変化があった。



A	B	C	D
36	57	7	0

主な変化としては(職員アンケートより)

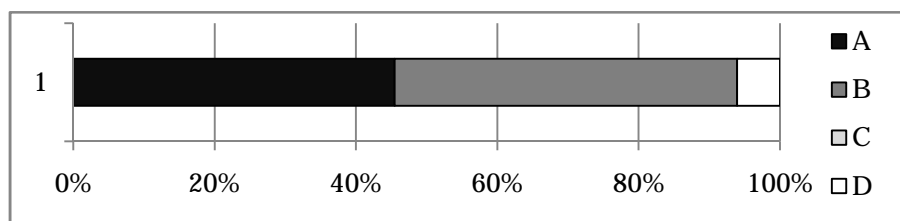
- ・今までは掃除も量的なノルマという考え方の子どもであったが、現在は自主的な活動という捉え方をしている。(必要であれば汚れているところやごみも片付けようとする。)
- ・全校児童生徒が一斉に掃除を行うことで一体感が生まれる雰囲気がよい。遊ばずに取り組む生徒が多い。
- ・掃除を頑張ろうとする姿が時間がたつにつれて多くみられるようになってきて、クリーンタイムだけでなく家でもいろいろしてくれるようになったと保護者から聞くこともあった。
- ・学校全体で雰囲気を作ることによって子どもの意識が変わり作業学習と同じくらいの気持ちで取り組んでいる。職員が技術を再認識することで指導が変わり子どもの技術も向上した。
- ・開始時間に遅れないように急ぐ姿や、手順通りに集中して行う場面が多く見られるようになった。
- ・音楽が流れてきたと同時に移動することが増え、時間を意識することができるようになっている。
- ・目標設定することにより評価がよりやりやすくなった。結果褒める機会が増え、生徒たちのモチベーションが向上したように思う。何よりも教師の意識改革に役立った。

3 連携 / 協力体制の強化 (collaboration) について

(1) 校内の連携について

学部が変わっても同じ視点で引き続き支援を行うことができるように、アセスメントシート（添付資料3）の作成を行った。アセスメントシートは本校のキャリア発達に必要な6領域の能力（関わる力、描く力、求める力、働く力、生活する力、楽しむ力）ごとにカテゴリを分け、その中で一つ一つの項目ごとに（例：働く力>作業能力>巧緻性）3段階+特記事項でチェックを行うようにした。22年度に試作が完成し、まずは全員ではなく、小学部6年生、中学部3年生の次の学部への引き継ぎ資料として活用した。「年度の初めの段階で役に立つ」といった意見の半面、「実態別にもう1パターン必要」「このままだと活用頻度が少ない」などの意見がみられた。今後、個別の教育支援計画との連携や、項目の改善などの課題ある。

設問8 アセスメントシートは校内や校外との子どもの引き継ぎ資料、実習先や関係機関との連携資料として有効活用できそうである。



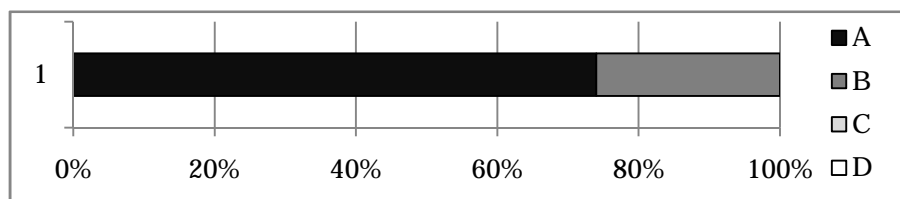
A	B	C	D
45	48	0	6

(2) 外部との連携

卒業後の定着支援は、進路指導部・旧担任を中心に計画しており、卒業後3年間定期訪問を行っている。それ以降も必要に応じて関係機関と連携した支援を行っている。経過を職員研修などで取り上げながら、連携・協力体制の在り方についても共通理解を図っている。今後、産業現場実習や卒業後の移行先などへの説明や引き継ぎでアセスメントシートを活用していきたい。

関係機関や卒業後の進路の共通理解資料として「進路指導の手引」を作成した。キャリア教育の概要や卒業後の支援体制、進路決定の為の資料、天草地域の福祉サービスの解説など、1冊で子どもの天草地域での卒業後の生活を考えることができるものとなっている。22年度は校内資料として活用したが、23年度は保護者へ配布し、早い段階で進路について考えていくための資料となっている。

設問9 「進路指導の手引」は天草地区での卒業後の姿を考えるために有効活用できる。



A	B	C	D
74	26	0	0

まとめと今後の課題

1 情熱：教員の資質向上（passion）について

各研修もそうであるが、学校全体で一つのことに取り組み、様々な場面でキャリア教育に関する話や取組に触れることで、徐々に職員全員の意識が変わり、児童生徒一人一人に対する指導・支援へ反映されてきた。職員アンケートでは「一つの方向を全員が向くことで、連携がとりやすくなった」「教員一人一人が意識し始めて、すべての場面で指導・支援が変わった。じわりじわりと子どもが良い方向に向かっている」など、職員の意識が変わり、学校生活全体で少しずつ良い方向に向かっているという意見が多かった。

意識改革は具体的な取組に比べ結果が見えにくく、職員全体として実感できるのは、取り組み始めてかなりの時間が経ってからであろう。しかし、これが原動力となりすべての取組が良い方向へ機能していることは間違いない。今後は研修や取組を通じて、今の職員の意識を毎年継続していくことが課題となる。

2 授業：教員としての第一の任務、使命（mission）について

キャリア教育全体推進計画・キャリア発達段階全体構造を作成したことで、全体の見取り図としてや、実践の振り返りの参考として活用しながら、すべての取組の基盤として働いている。将来必要な6つの能力を設定して共通理解を図ったことで、見落としがちなことなども、すべての授業の中で意識することができ、共通の認識の中で実践を進めることができた。

各学部でも研究授業を重ね、改善を図ってきた。これらの取組はすべて、子どもたち自身が「働くこと」を意識する取り組みであり、小学部から働くことを意識し、高等部の産業現場実習、その後の卒業後の姿まで1本の道でつなげることができたことは大きい。

また、研究授業などで取り上げることがなかった他の授業においても、各学部で十分検討しながら取り組むことができた。

天養クリーンタイムの取組は、大きく教育課程を変えずに、普段の活動をそのまま見直す形で取り組むことができるのが利点である。学校全体で取り組む中心となる活動となり、子どもの変化に加え、教師の意識改革にも大きな力となった。

実践は、新しい単元や取組が多く、まだまだ改善の余地がある。新しく始まった取組を中心に改善を重ねてさらに一人一人にニーズに対応した授業を目指していかなければならない。

3 連携：協力体制の強化（collaboration）について

アセスメントシートは、校内での学部間のつながり、さらに校外の機関とのつながりを図るツールとして作成した。まだ試用段階であるが、今後は利用の幅を拡大していきたい。校内では個別の教育支援計画との連携を図り、同じ視点で子どもを見ることはもちろん、教師自身の指導のチェックとして、アセスメントシートの項目を活用したい。将来必要な6領域の能力を、さらに細かい項目で具体的に示しているのがこのアセスメントシートである。教師自身がアセスメントシートでチェックすることで実践を振り返り、児童生徒一人一人の将来のニーズに合わせた指導がもれなくできているかをチェックできるようにしたい。校外では産業現場実習や卒業後の移行先での引き継ぎや、天草地域の学校で同じ視点で子どもを見ることができるようになることが期待される。

今後もこのキャリア教育を継続し、この3年間でできなかったことや、見えてきた課題に取り組み、本校のキャリア教育を充実させていく必要がある。

【参考文献】

中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

全国特別支援学校知的障害教育校長会 編著

「特別支援教育のためのキャリア教育の手引」 ジアース教育新社

岩手県総合教育センター 特別支援室「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」

西村修一 著「子どもの見方がかわるICF」クリエイツかもがわ かもがわ出版

本校のキャリア教育のとらえ	学校教育目標	児童生徒・保護者のねがい
将来の社会参加と自立、豊かな生活の実現を図る教育 児童生徒一人一人の発達段階に配慮した、勤労観および職業観を育てる教育	子どもたちががやく学校の実現 笑顔いっぱい、楽しさいっぱい、地域とともに生きる学校 《めざす子ども像》 「健康」・・・元気で明るく 「自立」・・・自分のことは自分で 「協力」・・・友だちと仲良く 「勤労」・・・楽しく働く	・自分のことは自分でできるようになりたい ・毎日、元気に楽しく生活したい ・いろいろなことに挑戦し、やりたい仕事を見つめたい 等 ・家から遠くないところで働きたい 等

学部目標		
小学部 元気で明るい子ども 自分のことは自分でしようとする子ども 友だちと仲良くする子ども 一生懸命に取り組む子ども	中学部 健康で明るい生徒 自ら進んで行動できる生徒 仲良く、楽しく生活できる生徒 最後まで頑張る生徒	高等部 明るく健康的な生活を送る生徒 自主的に活動する生徒 仲間を思いやることのできる生徒 自ら進んで働く生徒

各学部段階におけるキャリア発達能力の目標			
各学部段階	小学部	中学部	高等部
職業（進路）発達段階	身辺自立の確立と人間関係の基礎形成	社会生活能力と自己表現の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成
関わる力 （人、もの、情報とよりよいかかわる力）	人や物に対して興味・関心をもつ	周囲の人と協力して活動する	場面や目的に応じて適切に関わる
描く力 （夢・目標・見通し・役割を描く力）	自分のやりたいことを表す	見通しを持って役割に取り組む	夢への見通しを描く
求める力 （よりよい方向に向けて選ぶ・決定する力）	自分で選ぶことができる	自分で決めたことに責任を持つ	よりよい方法を自分で判断する
働く力 （学習や作業を行う力、役割を果たす力）	学習や係活動に進んで取り組む 身の周りのことが自分でできる	基本的な働く力を身に付ける	主体的に働く力を身に付ける
生活する力 （家庭生活や社会生活を行う力）	好きなことに集中して取り組む	基本的生活習慣を身に付ける	社会生活に必要な力を身に付ける
楽しむ力 （余暇を活用し、生活を楽しむ力）		関心を広げ、好きなことを見つけ楽しむ。	趣味を広げたり、深めたりする方法を知る

天養クリーンタイム（掃除）における主なねらい

	小学部	中学部	高等部
各発達段階における主なねらい	自分の役割を意識した清掃活動 ・掃除の仕方を身に付ける ・周りと一緒に活動する ・日常的な活動を通して「働く力」をつける	働く喜びを味わう清掃活動 ・「働く意欲」や「働く喜び」の獲得 ・役割を果たす ・共同作業を通して協力する	将来の生活を意識した清掃活動 ・責任を持って最後までやる ・実的な技能の習得 ・場面に応じて協力する

天草養護学校 キャリア発達段階 全体構造

	幼稚園・保育所 早期療育	小学部		中学部	高等部	卒業後	
		1～3年	4～6年				
進路発達段階	生活基盤形成	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成		社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成	社会的移行	
各発達段階における 主なねらい	・生活リズムを整える ・身辺処理に関心を持つ ・認知の能力を高める ・自他への関心を高める	・家庭生活、学校生活のリズムを整える ・身の回りのことが自分でできる ・学習や遊びに進んで取り組む ・コミュニケーション能力を育てる ・地域や社会への関心を育てる		・基本的生活習慣を身に付ける ・自主性・主体性を育てる ・作業能力を育てる ・コミュニケーション能力を高める ・地域や社会への参加を促す	・生活を豊かにするための基礎的な知識・技術・態度を身に付ける ・主体的に働く力を育てる ・社会生活に必要な力を育てる ・自己選択、自己決定力を育てる	・職場への適応 ・地域社会への適応 ・余暇活動、生き方	
勤労観・職業観	勤労観の育成 (日常生活動作と基本的生活習慣に関する力 社会生活、家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力)						
能力	内容	各学部におけるキャリア発達の系統イメージ・関係する教科・視点ごとの活動例					
関わる力	人・もの・情報とよりよく関わる力 「コミュニケーション能力」 「自己理解能力」 「情報収集・活用能力」	あいさつ・返事をする — 仲良かかわり、思いやりの心を持つ — 協力・信頼する — 場面や目的に応じたコミュニケーションを図る					
		他者に関心を示す	あいさつ・返事ができる 友達と活動する楽しさを味わう 「日常生活の指導」「生単」	友だちと一緒に遊ぶ 地域の小学校や友達を意識する 「生単」	友だちと協力して活動する 「生活単元学習」「作業学習」 「特別活動(委員会等)」	場面や目的に応じたコミュニケーションが取れる 「作業学習」「現場実習」「日生」「総合」	様々な年代の人や立場の人と円滑なコミュニケーションがとれる
描く力	夢・目標・見通し・果たすべき役割を描く力 「自己表現能力」「将来設計能力」「計画実行能力」 「役割把握認識能力」	感情を表す — 自分の望み(夢)を表す — 望み(夢)をかなえる方法がわかる — 夢の実現に向けて努力する					
		感情を表す	やりたいことを表す 「生単」	自分のやる仕事ができる 夢を広げる 「日生(係活動等)」「生単」	自分の役割を果たす 夢をかなえる方法を探す 「日生(係活動等)」「生単」	責任を持って最後までやる 夢の実現に向けて努力する 「特別活動(委員会)」「現場実習」「作業学習」	夢の実現に向けて将来の生活を見通しながら努力する
求める力	より良い方向に向けて選ぶ決定する力 「選択能力」「自己決定能力」 「課題設定・解決能力」	自分で決めようとする — 自分で選択できる — 自分で決めたことに責任を持つ — よりよい方法や内容を選択する					
		自分で決めようとする	くらべて選ぶ 「生活単元学習」	たくさんの中から選ぶ 「生単」「特別活動(のびのびタイム)」	自分でやりたいことを決める 「総合」「特活」「行事」	将来に向けてよりよい方法を選択する 「特別活動(現場実習・事前事後指導)」	状況を判断してより適切な方法を選択する
働く力	学習や作業を行う力、役割を果たす力 「職業理解能力」「作業能力」 「健康管理能力」	頼まれたことができる — 様々な役割があることを知る — 自分の役割がわかる — 自分の役割を果たす					
		頼まれたことができる	身近な仕事を知る 簡単な手伝いができる 「生単」「日生」	様々な職業を知る 係や当番の役割を果たす 「生活単元学習(校外学習)」	仕事について関心を持つ 作業能力の育成 「総合」「作業学習」	職業生活一般に対する知識 作業能力の向上 「作業学習」	与えられた役割を果たし、社会の中で自立する
生活する力	日常(家庭)生活や社会生活を行う力 「日常生活能力」 「社会生活能力」	基本的な動作ができる — 身の回りのことができる — 社会生活に必要な力が身につく — 社会生活における様々な知識・技能を身につける					
		立つ、歩く、持つなどができる	日常生活動作の獲得 「日常生活の指導」 「自立活動」	基本的生活習慣の獲得 「日常生活の指導」 「自立活動」	社会生活能力の基礎を身に付ける 「生活単元学習」 「教科別の指導」	社会生活能力を高める 「作業学習」 「総合(校外学習・進路学習・生活自立学習)」	実践的な社会生活能力の向上
楽しむ力	余暇を活用し、生活を楽しむ力 「余暇活用能力」 「元気回復能力」	欲求を表現できる — 好きなことをやろうとする — 好きなことをやるための手段がわかる — 自分の興味・関心に基づいた活動ができる					
		快・不快がわかる	好きな活動を自分から行う 「特別活動」「生単」	好きなこと集中して取り組む 「特活(のびのび)」「生単」	自分の趣味を持つ 「特活(のびのび)」「生単」「部活動」	趣味を広げ、趣味を深める 「生単」「部活動」	余暇を有意義に活用できる

社会参加と自立

豊かな生活の実現

学校外における支援内容

関係	支援内容	学校・機関との連携	主体性の育成	本人の活動支援	金銭管理等の必要最低限の支援
家庭	(役割) いちばん身近な支援者として本人の気持ちに寄り添う 早期発見・早期療育 障害理解・受容 安定した母子関係 機関との連携	学校・機関との連携、安らぎの場としての機能、福祉・進路情報の収集、サービス利用 日常生活動作や基本的生活習慣の支援・教育、地域活動への参加支援、自主的活動支援	主体性の育成 進路先への理解 性についての支援	本人の活動支援 性についての支援 進路に向けた支援体制の確立	金銭管理等の必要最低限の支援 精神的な支え
地域	(役割) 地域の一員として受け入れ、必要な支援を行う。家族を支援する。 障害の理解 家族支援	障害の理解 こども会活動への参加支援 地域行政への参加支援	障害理解 地域行事への参加支援 地域への受け入れ	障害の理解と支援 実習の受け入れ 地域への受け入れと具体的支援	障害の理解と支援 地域への受け入れ 本人への具体的支援
機関関係	(役割) 本人・家族の幸せを守るための必要な支援を行う。 保健：早期発見・早期療育 行政：就学支援 福祉：制度の案内、福祉サービス	保健：定期的観察 行政：就学指導、福祉サービスの案内 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：情報提供 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：就職の斡旋、職業訓練 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期健診、加齢対策 労働：職場指導 福祉：福祉サービスの提供

記入日 平成 年 月 日() 記入者

学部		学年		名前	
----	--	----	--	----	--

【関わる力】

項目	自慢できるところ	自立	見守り	一部介助	全介助	特記事項
コミュニケーション	挨拶					
	言葉遣い					
	返事					
	聞く					
	意思伝達		できる	時々できる	ほとんどできない	できない
	伝達方法					
	人前での自己アピール					
	異性とのかかわり					
	指示の理解		できる	時々できる	ほとんどできない	できない
	電話の使用					
情緒	気持ちのコントロール					

【描く力】

項目	自慢できるところ	ある	ややある	ない	特記事項
自己表現	感情表現				
	将来の夢				
	目標				
	見通しをもって行動				
	役割の把握				

【求める力】

項目	自慢できるところ	できる	ややできる	支援必要	むずかしい	特記事項
自己発信	自己決定					
	選択					
	状況判断					
	課題解決					

【働く力】

項目	自慢できるところ	ある	ややある	ない	特記事項
作業能力	就労意欲				
	持続性				
	确实性				
	準備				
	後片付け				
	安全性				
	巧緻性				
	体力				
	責任感				
	計画性				

学部		学年		名前	
----	--	----	--	----	--

【生活する力】

	項目	自慢できるところ	自立	見守り	一部介助	全介助	特記事項
衣服の着脱	ボタンのかけはずし						
	靴紐結び						
	エプロン着用						
	衣服の着脱						
	靴下の着脱						
	脱いだ服の片付け						
	衣服の調節						
清潔	歯磨き						
	洗顔						
	ひげそり						
	うがい・手洗い						
	整容・身だしなみ						
	つめ切り						
	衣服が汚れたときの着替え						
整理整頓・掃除	整理整頓						
	ゴミの分別 (燃える、燃えない)						
	掃除 ほうき使用						
	掃除 ぞうきん使用						
洗濯	掃除機使用						
	洗濯機使用						
	洗濯物干し						
食事	洗濯物たたみ						
	摂食						
	手洗い・うがい						
	食前食後の挨拶						
	咀嚼						
	姿勢						
排泄	配膳、片付け						
	排尿						
	排便						
	排泄後の手洗い						
	後始末						
知識理解	生理の手当、始末						
	金銭管理						
	読字力(ひらがな)						
	数字(10まで)						

時間の理解						
-------	--	--	--	--	--	--

学部		学年		名前	
----	--	----	--	----	--

【楽しむ力】

	項目	自慢できるところ	自立	見守り	一部介助	全介助	特記事項
余暇・ 社会参加	調理・包丁の使用						
	・ガス台の使用						
	・一人での調理						
	買い物・物の選択						
	・支払い						
	・一人での買物						
	屋外移動・自転車						
	・バス利用						
	趣味		もっている	何らかの 支援必要	もっていない		
	地域活動		参加している	支援があれば できる	むずかしい		

配慮すべき事項

その他	
-----	--

講演 講師紹介

演題

「みんなが働ける共生社会の提言
～ 重度知的障害者に導かれた企業経営から～」

講師

日本理化学工業株式会社 会長

大山 泰弘 氏



写真提供：WAVE 出版

< 過去の公職 >

昭和62年11月5日 重度障害者多数雇用事業所協議会会長

(昭和56年3月26日同上副会長就任)

平成元年5月25日 社団法人全国重度障害者雇用事業所協会設立、会長就任

平成15年5月21日 同上会長退任

< 外 >

(個人)

昭和56年12月9日 国際障害者年内閣総理大臣表彰

昭和62年5月8日 神奈川県知事表彰

平成15年9月2日 厚生労働大臣表彰

平成16年5月10日 叙勲瑞宝単光章

平成17年2月1日 日本フィランソロピー協会より

企業フィランソロピー大賞のうち特別賞 社会共生賞

平成17年11月15日 ソロプチミスト日本財団より社会ボランティア賞

平成20年11月3日 テレビ東京「カンブリア宮殿」出演

平成21年2月10日 渋沢 栄一賞

平成21年7月 (知的障害者に導かれた) 『働く幸せ』(WAVE出版) 発刊

平成23年4月 『利他のすすめ』(WAVE出版) 発刊

(会社)

平成元年9月1日 労働大臣表彰

平成16年1月21日 神奈川県優良工場表彰

平成16年7月1日 川崎市ベンチャー事業奨励賞

平成22年10月14日 東京商工会議所より「勇気ある経営大賞」

レジュメ

日本理化学工業株式会社
会長 大山泰弘

みんなが働ける共生社会の提言 ～ 重度知的障害者に導かれた企業経営から～

- 一．日本理化学工業(株)とは
国内シェア 30%を持つダストレスチョークメーカーで、従業員 73 人中 55 人の知的障害者を雇用している
- 二．何故知的障害者多数雇用モデル工場をつくったのか
 - 1．青鳥養護学校の先生の 3 回の訪問で
 - 2．禅のお坊さんの言葉から障害者の多数雇用を決意
 - 3．従業員の 50%以上を条件とする、国の心身障害者多数雇用モデル工場融資制度を活用してスタート(1975 年)
- 三．知的障害者の雇用割合 7 割を超す企業経営の進め方
 - 1．知的障害者の理解力に合わせた工程の工夫
 - 2．彼らの親切さを活用しての班長制度を設けた
- 四．モデル工場経営は一石三鳥の社会的貢献、そして渋沢栄一賞受賞で知る日本の中小企業のもう一つの活路
- 五．真の福祉に立つ日本国憲法からすべての国民が役に立って働ける共生社会の実現へ
- 六．商売繁盛のえびす様が、障害者雇用の日本理化学に子育て文化に貢献するキットパスを用意して下さった

以上

memo